

2024 年度 目白大学短期大学部 学位授与式

式 辞

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。また、ご列席の保護者のみなさま、今日の良き日を迎えましたこと、まことに、お慶び申し上げます。

入学式で、みなさんにこんなお話をしたことを覚えているでしょうか。大学は、アイデンティティを作る時間だと。トライ・アンド・エラーの機会であると。そして、たくさん本を読んで、感性を育ててくださいと。

みなさんには自由がありました。みなさんはその自由をどのように使ったのでしょうか？勉強していても、遊んでいても、平等に同じ時間が経過します。でも、残念ながら、過ぎてしまった時間は、元には戻せません。

昨年もお話しをしましたが、禅の世界に、「地獄と極楽」、あるいは「三尺三寸箸」という説話があります。

「極楽にも、地獄にも、同じ山盛りのご馳走と、長い箸がある。

でも、地獄の亡者達は、いつも飢えて、不機嫌で、

極楽の住人は、いつも笑顔であった」

二千年も前から語り継がれている、「物事は中立であり、それに意味を与えるのは自分自身にはかならない」という、戒めですね。

では、どのように考えればいいのでしょうか？

ダイナマイトはものを造るためにも、戦争にも使えます。さらにその材料となるニトログリセリンは、実は、狭心症の特効薬でもあるという、多面性を持っています。単純な善悪では計れませんし、一見厳しそうに見える地獄にも何か学びがありそうです。

では、物事をどのように見ていけばいいのでしょうか。

そこには、いくつかのヒューリスティクスと呼ばれるものがあります。

一つ目は【コンフォートゾーンの牢獄】。

今が楽だよね、変化は嫌いだという、気がつかないうちに自らが創り出してしまったバリアです。そのバリアは、外界の嫌なことを防いでくれますが、一方で、自己実現の可能性を制限してしまうという二面性を持っています。ジョン・B・カルフーン博士の樂園実験では、コンフォート、つまり樂園のような環境でネズミを育てたところ、全て失敗してしまいました。ストレスは悪者のように感じますが、楽な環境に何の疑問も感じなければ、そこから成長の機会を失ってしまいます。例えば、まだ、知恵（ちえ）の実を食べることなく、平和なエデンの園に永遠に住んでいたら、今の経済も、DXなど科学の発展もありません。大学の敷地にも、目白遺跡の出土品が展示されていますが、もしかすると、いまだに、縄文人の様な生活をしていたのかもしれない。

卒業するみなさんは、否応なしに、学生から社会へという大きな環境の変化に直面します。

二つ目は【学修性無力感の呪い】。

失敗を恐れて何もしない。やがて、挑戦する前に諦めてしまう。やはり、逆上がりやスキーマのお話をしましたが、赤ちゃんは、最初から歩けないなんて考えていませんね。いつから、失敗することは悪いことであるかのように、自分自身の能力を制限してしまったのでしょうか。

三つ目は【^{みち}楽な路の落とし穴】。

つらいことはやりたくないからと、安易な道に逃げてしまうのは一番簡単なことです。その一瞬は満足しますが、あとで後悔の念がわくかもしれません。でも、人生の道にはずるはできません。大人になっても心が子どものままの人は、ついつい、ハリーポッターのディメンター（吸魂鬼）のように、他人のエネルギーを奪い取って、心の隙間を埋めようとします。でも、むなしさだけが振がります。ひとつひとつの学びのアイテムは、自らの手で集めなくては成長できないのです。大事な学びは、ちょっと廻り道したり、寄り道したところにあるかもしれません。

吉田松陰はこんな言葉を残しています。

「努力して後悔した人は、一度も見たことがないが、

努力しないで後悔した人は、腐るほどこの目で見てきた。

練習して下手になる人はいない。

勉強して馬鹿になる人もいない。

何かをして変わった人はいても、何もしないで変わった人は、絶対にいない」

可能性という種は、自ら心を耕し、感性という栄養を与え、喜びという光をあてて、はじめて実を結ぶものです。

さて、人は、色々なことを考え、その思いが形になりますとお話ししてきました。

では、その思考は「本当にあなたのもの」ですと、自信を持って言えるでしょうか？確かめもせずにエビデンスのない噂話や SNS をう呑みにして、流されて、あたかも自分の考えのように錯覚をしていないと断言できるでしょうか？自分自身の自由な選択権を手放してしまったその状態を、アイデンティティ・クライシス（アイデンティティの危機：自分のアイデンティティが確立できなかった）といいます。

アイデンティティ・クライシスは、いきものがかりさんの YELL に、こんなフレーズで表現されています。

「”ほんとうの自分”を、誰かの台詞（ことば）で繕うことに逃れて迷って」

あなたが現実を、あなた自身で創り出しているのなら、自分の言葉で、自信を持って行動できるはずです。

建学の精神の「主・師・親」ですが、お釈迦様の、人々に接する際の「守り、導き、慈愛」する三つの徳の一つであると言われています。

これまで、「主」であるみなさんは、ご家族からたくさんのものを受け取りました。短大では、「師」である先生方から、たくさんの教えを受けました。これからは、皆さんが、「親」となり、人生の「師」となり、他の人々や、次の世代の子どもたちや、後輩たちに、ここで受け継いだものを、伝えていくことになります。

4 月からは、それが試されます。

もう、「先生～」と泣きつく先はありません。

最後に大事なことをお伝えします。

みなさんが見ているのはどの様な世界でしょう？

禅に、円相、円観という瞑想法があります。太陽や月のような円の描かれた掛け軸を前に座禅を組み、その光の円を心の中に、そして体のすみずみに行きわたらせます。その光は周りの人も包み込んで、この講堂に、中落合に、新宿区、日本、地球の大きさへと、どんどん大きくなっていきます。宇宙まで振がって一体感を感じたら、それを小さくして再び胸の中に納めます。円は自分を映す鏡であり、円窓とも言われています。世界の中における自分の位置関係を確認する作業です。

多様性の時代と言われていますが、自分がその大きな世界のどこにいるのかが、客観的に認識できるようになれば、ものごとの本質が見えてくるはずです。そして、あなたの出会う人々が、どんな視点から生きているのかがわかると、その関わり方や、自分の成長のポイントがはっきり見えてきます。

そのためには、まずはしっかりと相手の目を見つめて、笑顔と大きな声で挨拶ができる人になってください。愛想笑いではない、心からの笑顔です。目が笑っていますか、というのがポイントです。

「そもさん説破（せっぱ）」

一休さんで聞いたことがあると思いますが、挨拶は禅の『碧巖録（へきがんろく）』の一挨一拶（いちあいいつさつ）がルーツです。「挨（あい）」は、相手に寄り添う、ちょっと押すこと、「拶（さつ）」は、相手に迫ることです。修行の成果をお互いに問いかける問答をすることによって、悟りや知識見識の深さを確認します。本気で、それぞれのアイデンティティをぶつけ合うことで、お互いの成長を促すのです。

そんな中で、「私は、こんな人です」と言える、それが、社会に出て行くための、あなただけの卒業証明書です。「学び続ける力」「実践する力」「社会に還元する力」という3つの力を身につけたみなさんは、胸を張って卒業して行ってください。

先ほどのYELLの中にはこんなフレーズもありました。

「だからこそ僕らは他の誰でもない、誰にも負けない
声を挙げて”わたし”を生きていくよと」

出会いがあり、別れがある。これは人の世の常です。私たち教員は、何十年もそれを繰り返してきました。

そして、私たち教員は、みなさんが、しっかりと成長して、ひとりひとりが選んだ自分の道を、次の未来に向かって羽ばたいていくのを見るのが大好きなのです。

ですから、万感の思いを込めて、皆さんを送り出していきたいと思います。

ご卒業おめでとうございます。

2025年3月21日
目白大学短期大学部 学長 山田 隆文